

心の栄養剤 No.241 『日本人の魂』

「壊滅の街 眼前の悪夢」一未曾有の大災害を伝える新聞の見出し。不安、絶望、恐怖、寒さ、無力感、悲嘆に明け暮れる被災現場。

そんな時、ネット上に流れた1枚の写真に胸が熱くなった。自衛隊員が抱える赤ちゃんの写真である。震災から3日後、生後4ヶ月の赤ちゃんは瓦礫の中で泣き声を上げ、自分の居場所を知らせてくれたそうだ。

さらにネット上では誰かが被災地や避難所で見かけた光景をSNSで配信、それをまた誰かが誰かに送る。そんな情報が飛び交った。どんなマスコミ報道より元気をくれた情報だった。

「ディズニーランドでは、ショップのお菓子などが配給された。その時、ちょっと派手目な女子高生たちが必要以上にたくさんもらってて、一瞬『何だ!』と思った。けど、その女の子たちが避難所の子どもたちにお菓子を配っていたところを見て感動した。子ども連れは動けない状況だったから」

「一回の青信号で一台しか前に進めないなんてザラだったけど、誰もが譲り合い、穏やかに運転している……10時間の間、お礼以外のクラクションの音を耳にしなかった。恐怖と同時に心温まる時間で、日本がますます好きになった」

「夜中、大学から徒歩で帰宅する道すがら、とっくに閉店したパン屋のおばちゃんが無料でパンを配給していた。こんな喧騒の中でも自分にできることを見つけて実践している人に感動し、心が温まった。東京も捨てたもんじゃないな。」

「韓国の友達からのメールです。『世界唯一の核被爆国。大戦にも負けた。毎年台風が来る。地震だってくる。津波も来る。小さい島国だけど、それでも、そのたび、立ち上がってきたのが日本なんじゃないの! 頑張れ! 超頑張れ!。』ちなみに僕はいま泣いている」

「4時間の道のりを歩いて帰る時に、『トイレのご利用どうぞ!』と書いたスケッチブックを持って自宅のお手洗いを開放してた女性がいた。日本って、やっぱり世界一温かい国だよな。あれ見たときは感動して泣けてきた」

「避難所で、4人家族なのに「分け合って食べます」と3つしかおにぎりをもらわない人を見た。凍えるほど寒いのに、毛布を譲り合う人を見た。きちんと一列に並んで、順番を守って物資を受け取る姿に、日本人の誇りを見た」

「ぜんぜん眠っていないであろう旦那に、「大丈夫? 無理しないで」とメールしたら、『自衛隊なめんなよ! 今無理しないでいつ無理するんだ?』と返事が」

「父が明日、福島原発の応援に派遣されます。半年後定年を迎える父が自ら志願したと聞き、涙が出そうになりました。『今の対応次第で原発の未来が変わる。使命感を持っていく』と。家では頼りなく感じる父ですが、私は今日程誇りに思ったことはありません」

「避難所で、おじいさんが『これからどうなるんだろう?』と漏らした時、隣にいた高校生の男の子が、『大丈夫! 大人になったら僕らが絶対に元に戻しますから!』って背中をさすりながら言っていた。大丈夫! 未来はある!」

みんな気持ちは同じなのだ。我々はきっと大災害を越えていけるだろう。そしてこの国はもっといい国になる。

8月は終戦記念日の日という事で、先の大戦に関する番組が放送されますが、先日の討論番組の中で…

日本の歴史始まって以来、最も不幸な世代は大正生まれの人たちだと言ってもいいでしょう。

すなわち大正元年から大正15年までの15年間に生まれた人たちです。このうち日本人男子は1348万人いました。

太平洋戦争が始まった昭和16年、大正元年生まれの人は29歳前後、大正15年生まれの人15歳前後でした。

そして、終戦の昭和20年の時は大正元年生まれの人は33歳前後、大正15年生まれの人19歳前後でした。

この世代がごそと徴兵され、日本の有史以来、一番多く亡くなったのです。戦死した男子の数は約200万人。1348万人のうちの200万人ですから約7人に1人です。

今私たちがいるのは、間違いなくあの人たちのおかげです。7人のうち6人は生き残り、女たちと力を合わせて、戦後、私たちを生み、育ててくれました。それだけでなく「20世紀の奇跡」と呼ばれる高度経済成長の中核を担ってくれましたが、その以降の日本人は「私」を優先させ「公」の精神を失い、「自分だけ良ければ良い」という日本人に成り下がってしまったとの意見があり、多くの出席者が頷く場面があったのですが、**私は何千年も続く日本人の魂は不変にあると思います。**

まずは「お盆休み」

今、自分が「生かされている」奇跡に感謝し、手を合わせましょう!

※今～毎週金曜日は、配達日として健康チェック機器等持参して、楽しみながら配達させていただいています!!
詳細につきましては、お電話にてお問い合わせください!!

くすりのキュート 倉光 浩城
TEL (090-8357-2904)

